

©Juliusz Multarzynski

©Higashi Akitoshi

指揮 ヤツェク・カस्पシク

ワルシャワ国立 フィルハーモニー管弦楽団

The Warsaw National Philharmonic Orchestra

パデレフスキ：序曲 変ホ長調

ショパン：ピアノ協奏曲 第1番 ホ短調 op.11

ドヴォルザーク：交響曲 第9番 ホ短調 op.95 「新世界より」

2018 **1/10** (水) 6:45pm

日本特殊陶業市民会館フォレストホール

S¥13,000 A¥11,000 B¥8,000 C¥7,000 D¥5,000 学生 ¥2,000(税込)

学生券
ご希望の方は中京テレビ事業ホームページよりエントリーしてください。
公演1か月前に抽選の上、お席をお取りできるか否か登録メールアドレスへご連絡いたします。
エントリー開始は一般発売日以降となります。

※プログラム、出演者等変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。
※未就学児のご入場はご同伴の場合でもお断りいたします。

主催：  CHUKYO TV 企画・運営：中京テレビ事業

お問合せ
お申込み **中京テレビ事業 ☎052-588-4477**
(月～金 10:00～17:00 / 土・日・祝日休業)

<http://cte.jp/> **中京テレビ事業**  **5/27(土) 一般発売**
10:00～
座席表からお席をお選びいただけます！

チケット販売所

中京テレビ事業チケットセンター	052-320-9933
チケットぴあ(Pコード 326-978)	0570-02-9999
ローソンチケット(Lコード 43898)	0570-084-004
愛知芸術文化センターPG	052-972-0430
栄プレチケ92	052-953-0777
e+(イープラス)	eplus.jp
名鉄ホールチケットセンター	052-561-7755
セブン-イレブン、サークルK、サンクス、ローソン、ミニストップ、ファミリーマート店頭	

ショパン・コンクール創設より、本選でファイナリストたちのオーケストラ演奏を務める、ポーランドの名門オーケストラ ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団と、2015年のショパン・コンクールで第2位・ソナタ賞を同時に受賞、予選時点から話題を集め評価の高かったピアニスト シャルル・リシャール=アムラン。この組み合わせで聴きたかった、ショパンのピアノ協奏曲第1番! ドヴォルザークの「新世界より」とともに、上質な名曲コンサートの趣で。

シャルル・リシャール=アムラン

Charles Richard-Hamelin

Piano

2015年に行われたショパン国際ピアノ・コンクールで第2位とクリスチャン・ツィメルマン賞(ベスト・ソナタ賞)を受賞したシャルル・リシャール=アムランは同世代の中でも最も重要なピアニストと注目されている。彼は2014年、モントリオール国際音楽コンクールで第2位、ソウルでの国際音楽コンクールで第3位と、ベートーヴェンのソナタ演奏で最優秀賞を受賞した。2015年4月には、トロントの婦人音楽クラブから特別キャリアアップ賞を贈られた。

彼はプラハの春音楽祭、ラ・ロック・ダンテロン国際ピアノ音楽祭(フランス)、ショパンと彼のヨーロッパ国際音楽祭(ワルシャワ)、ラノディエール国際音楽祭(カナダ)などの様々な有名音楽祭に出演。ソリストとしても、ワルシャワ・フィル、モントリオール・シンフォニー、トロント・シンフォニー、ポズナン・フィル、ベートーヴェン・アカデミー管、モントリオール市管、OFUNAM(メキシコ)、コリアン・シンフォニー、イ・ムジチ・デ・モントリオールと数多く協演している。

ケベック州ラナウディエル生まれのリシャール=アムランは、ポール・サルドウレスク、サラ・ライモン、ボリス・ベルマン、アンドレ・ラプラントに師事。2011年マックギル大学を卒業、2013年にはイェール大学から修士号が贈られた。また両大学から奨学金を受けている。2016年にモントリオール音楽院を修了。ピアニストのジャン・サウルニエとともに後進の指導にあたっている。

ショパン後期の作品を収録したファースト・アルバムは2015年9月にアナレクタ・レーベルからリリースされ、世界中の評論家から賞賛され(Diapason, BBC Music Magazine, Le Devoir) CBCの年間ベストテンに選ばれた。セカンド・アルバムを2016年秋にリリース、ファースト・アルバム同様高い評価を得ている。2016年5月の日本でのリサイタル・デビューは各地で絶賛された。



©Elizabeth Delage

ヤツェク・カスプシク

Jacek Kasprzyk

Conductor

ヤツェク・カスプシクは、2013年9月1日、ワルシャワ・フィルハーモニーの音楽芸術監督に就任した。

1975年ワルシャワで指揮、音楽理論、作曲を専攻して卒業。1977年ベルリンのカラヤン指揮者コンクールで3位となり、1978年のベルリンとニューヨーク・フィルのデビューにつながった。1982年以降、フィルハーモニア管弦楽団、ヨーロッパ室内管弦楽団と共演し、フィルハーモニア管弦楽団、ロンドン交響楽団、ロンドン・フィルにも客演した。その他、米国(シンシナティ響)、カナダ(カルガリー・フィル、ウィニペグ響)、日本(読売日響、東京フィル)、香港フィル、ニュージーランド響も指揮している。

カスプシクは祖国ポーランドでも数多くの要職を歴任してきた。主なものとしては、ポーランド国立放送交響楽団の音楽監督、NFMヴロツワフ・フィルハーモニー管弦楽団の芸術監督などがある。ポーランド国立歌劇場の音楽監督および芸術総監督の在任中には、同歌劇団を率いて北京音楽祭、モスクワのポリショイ劇場、ロンドンのサドラーズ・ウェルズ劇場、香港芸術祭に出演し、さらに3回にわたる日本ツアーを行い、いずれも大成功を収めた。

最近では、2012年のプレゲンツ・フェスティバルでのウィーン交響楽団との再共演、フェスティバル・ド・ラ・ロック・ダンテロンへの出演などがある。2010年にはアルゲリッチと共演したショパンのアルバムがリリースされた。

カスプシクは多くの賞を受賞しており、近年では、権威あるエルガー協会メダル(エルガー作品の解釈に対して)、「コリュパイオス・オブ・ポーリッシュ・ミュージック」賞(「ワルシャワの秋」音楽祭でのコンサートに対して)、ガゼタ・ヴィボルチャ紙の「マン・オブ・ザ・イヤー」聴衆賞を受賞した。



©Sophie Wright

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団

The Warsaw National Philharmonic Orchestra

ワルシャワ国立フィルハーモニー管弦楽団は、1901年11月5日、新しく建設されたフィルハーモニー・ホールで、同楽団にとって最初となる演奏会を行った。この旗揚げコンサートは、同楽団の初代音楽監督で首席指揮者のエミル・ムイナルスキが指揮し、世界的に有名なピアニストで作曲家、後には政治家となった、イグナツィ・ヤン・パデレフスキがソリストとして出演した。ポーランドで最も代表的なオーケストラで、首都ワルシャワを本拠地として活動。創立当時から高い評価を受け、グリーグ、クレンペラー、プロコフィエフ、ラフマニノフ、ラヴェル、R.シュトラウス、ストラヴィンスキー、アラウ、ホロヴィッツ、ケンプ、ルービンシュタイン、サラサーテなど一流の音楽家たちが客演した。

1950年音楽監督兼首席指揮者にヴィトルド・ロヴィツキが就任、飛躍的な発展を遂げ、世界でも第一級のオーケストラに成長した。1955年2月21日には、第二次世界大戦中に爆撃で破壊されたホール跡地に新しいフィルハーモニー・ホールが再建され、この日、ワルシャワ・フィルは、「国立フィルハーモニー」の称号を授与された。同楽団は、ペンデレツキやシマノフスキの作品などの録音により、権威あるレコード賞を受賞している。2013年のグラミー賞受賞の他、同賞には6回ノミネートされている。また、ショパン国際ピアノ・コンクール創設当初から、本選でファイナリストたちの伴奏を担当している。

